

第 2 期中期目標期間見込み 地方独立行政法人山梨県立病院機構 業務実績評価（概要）

平成 29 年 6 月の地方独立行政法人法の改正により、中期目標期間最終事業年度の直前の事業年度終了後、中期目標の実施状況を次期中期目標に反映させるため、中期目標の期間における中期目標及び中期計画の実施状況の見込みの調査及び分析を行い、並びにこれらの調査及び分析の結果を考慮して、業務実績の全体について総合的な評価を行うこととされた。

機構が山梨県知事に提出した第 2 期中期目標期間見込みに係る業務実績報告書に基づき、評価が行われた。その概要は次のとおりである。

< 全体評価 >

- ・総評として、第 2 期中期目標期間見込みにおける業務の実績は優れていると評価する。

< 項目別評価（18 項目） >

評 価		評価項目数		
		第 1 期	第 2 期見 込み	増減
特に優れている	S	4	5	1
優れている	A	7	9	2
順調である	B	7	4	△3
劣っている	C	0	0	0
著しく劣っており、大幅な改善が必要	D	0	0	0

○ 実施状況が特に優れていると評価された項目（評価 S）及び評価理由

① 質の高い医療の提供

専門医を確保するとともに、高度な医療提供に専念できるよう医師事務作業補助者を採用するなど体制も整えている。7 対 1 看護体制を安定的に維持する努力をしている。改善点への取り組みや有効策の継続に基幹病院として努力し、さらに充実させている。

② 医療に関する調査及び研究

新薬の治験に積極的に取り組み C 型肝炎治療において高い実績を収めるなど、病院機構が最先端の医療にも対応できる高度な医療機関であることを広く認識させた。その他、各種調査研究における学会発表では表彰実績も残した。

③ 地域医療機関との協力体制の強化

地域医療支援病院の指定を受け、さらにかかりつけ医検索システムの導入や地域連携業務に専任者を配置するなど、病病連携・病診連携の強化が進展し、紹介率・逆紹介率が大幅に向上した。

④経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減

後発医薬品の使用割合の大幅な向上など、経費削減に積極的に取り組んでいる。

また、未収金対策に取り組み、未収金の削減に繋げるとともに、病院の中心的収入である診療報酬請求部門の強化に努めた。

⑤予算、収支計画、資金計画、短期借入金の限度額

中期計画を大きく上回る経常利益及び純利益を達成しており、公立病院として模範となるような財務内容である。